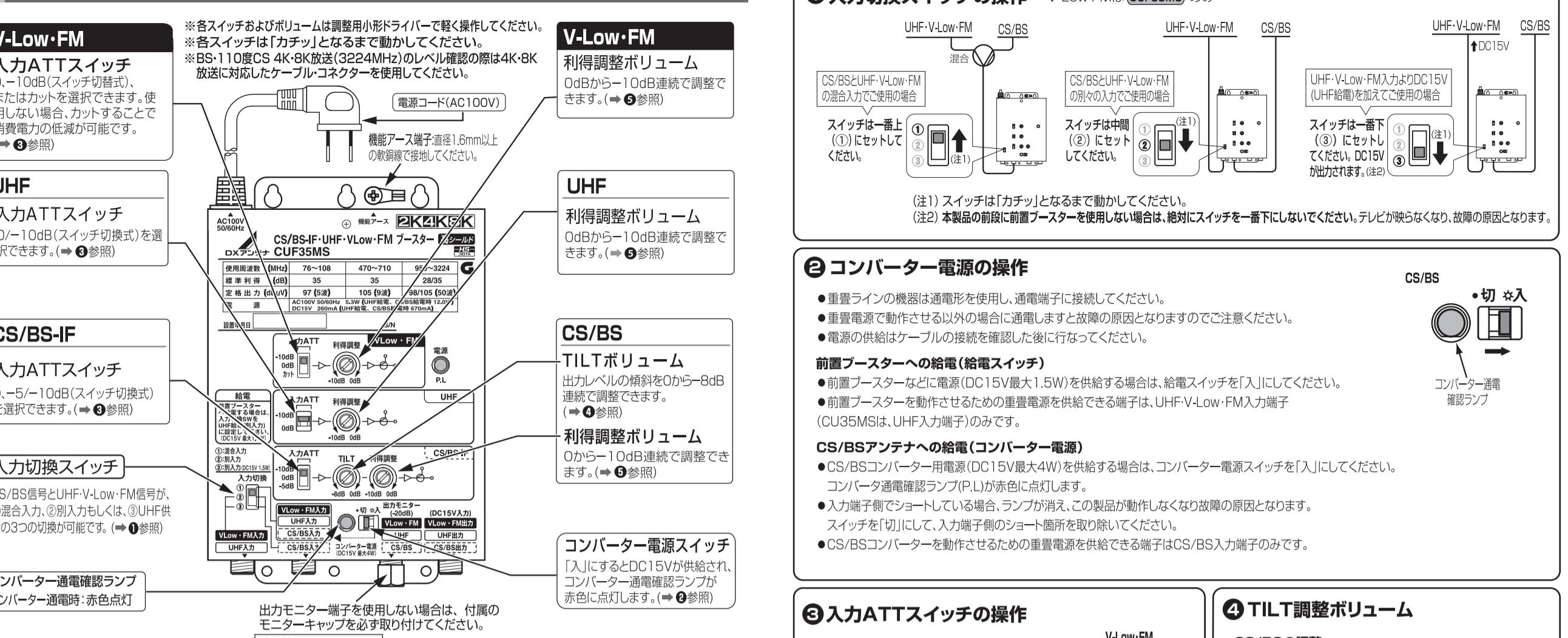
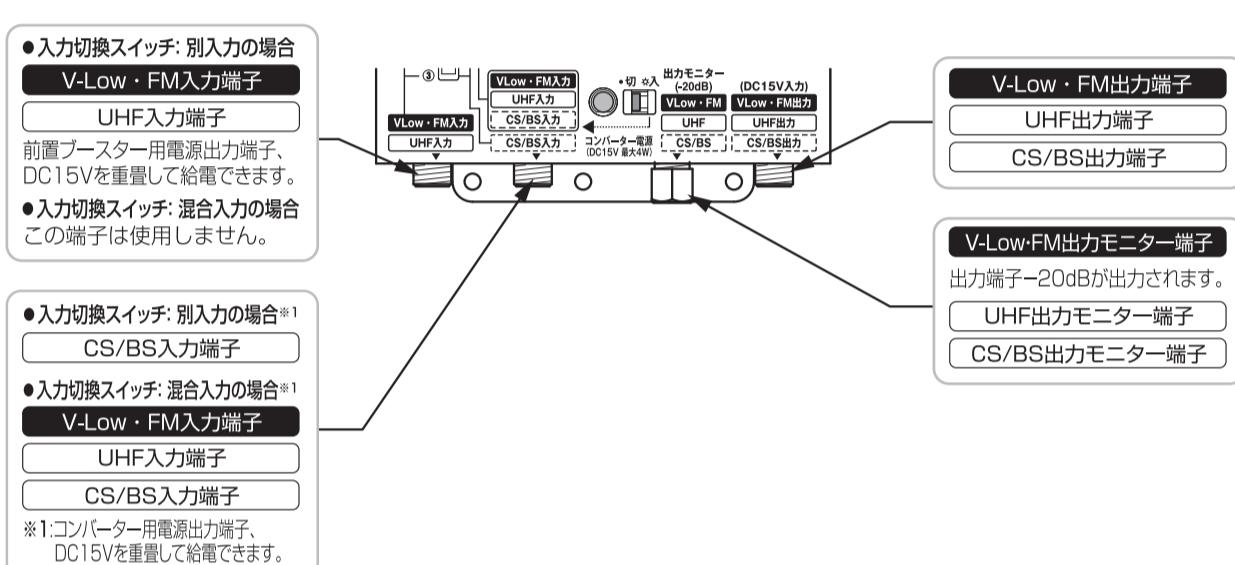




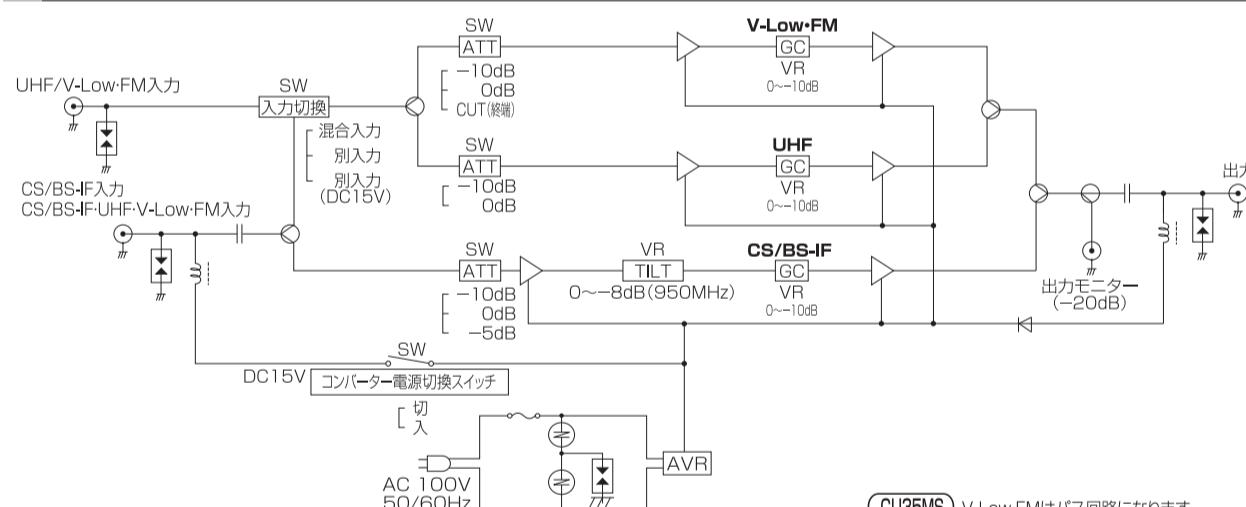
## 各部の名称



## 接続端子



## ブロックダイヤグラム

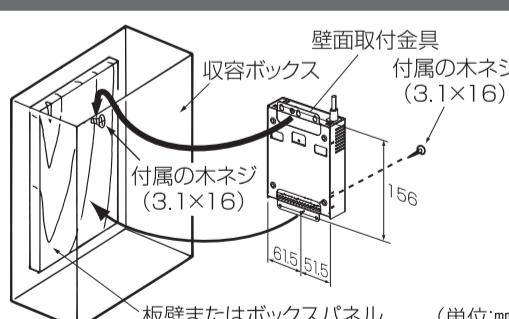


## お取扱いの前に

- 屋外に設置する場合は、必ず防水・防雨ならびに放熱処理を施した収容ボックスなどに収容してください。
- ブースターを落としたり、ぶつけたりしないよう注意してください。
- 取り付けに用いる以外のネジを回したり、製品本体のカバーを開けて回路部品に手を触れたりしないでください。
- 電源を供給する前に機能アースを必ず接地してください。なお、機能アースは安全アースではありません。
- この製品に接続する同軸ケーブルが7Cタイプの場合は、必ずコントラクトピン付き接栓をご使用ください。心線の径が1.1mmを超えるケーブルを直接接続すると、形状や接触不良の原因となります。
- 接続する同軸ケーブルの接栓取り付けは、その同軸ケーブル専用の接栓を説明書通り加工してご使用ください。特殊な加工をしたものを使用すると特性の悪化や機器の破損になります。
- 入力端子へのF形接栓の接続は、接続ナットを2N-mで締め付けてください(締め付けの過不足は故障や障害の原因となります)。
- 4K・8K放送(新4K8K衛星放送)を見るためには、3224MHzまで対応した同軸ケーブルや4K・8K対応のBS-110度CSアンテナなどの機器が必要です。

## 取扱方法

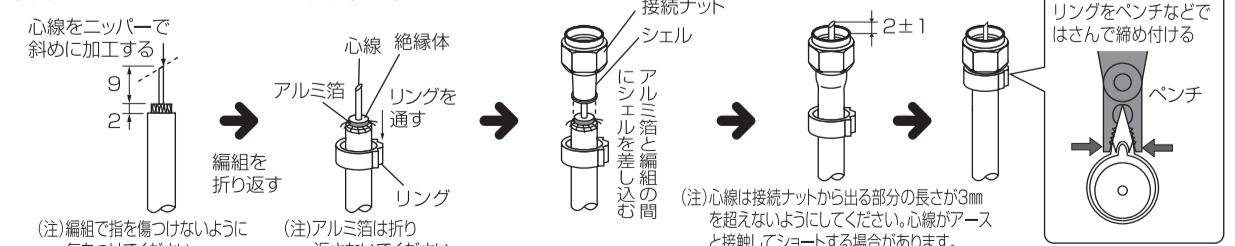
- 図のように板壁または放熱処理を施した収容ボックスのパネル板に壁面取付金具を付属の木ネジ1本で取り付け、ブースターを掛けてください。次に残りの木ネジ1本でブースターの下側を固定し、しっかりと取り付けてください。
  - この製品を1台収納する収容ボックスは、外形寸法500×500×140mm以上の大さで上下に換気孔のあるものを使用してください。
- (ご注意) 天井や熱のこもる場所への取り付けは避けてください。  
また、必ず入力端子が下向きになるようにブースター本体を取り付けてください。他の方向に取り付けると放熱効果が失われ、性能が維持できなくなる場合があります。  
同一の収容ボックス内にブースターを複数台設置する場合は、50mm以上間隔をあけて取り付けてください。



## 接栓と同軸ケーブルの加工方法

\*CU35MSにはF-5接栓(リング付)は付属しておりません。別売のC-15形接栓をご使用ください。

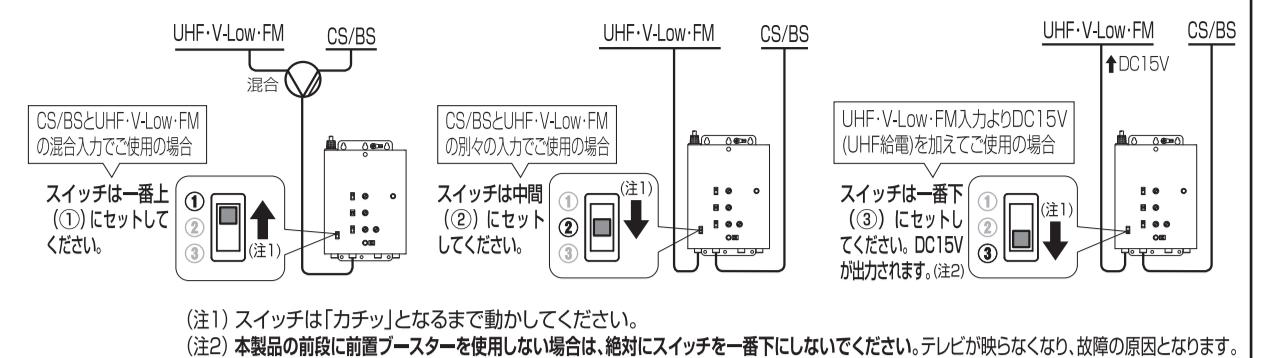
### 例: S-5C-FBケーブル使用時



- (ご注意) 4K・8K放送(3224MHz)に対応したS-5C-FBの同軸ケーブルを使用してください。
- 同軸ケーブルの先端加工をする場合、心線、編組に傷をつけないでください。断線の原因になります。
  - 編組と心線が接触しないようにしてください。テレビが見えなくなるだけでなく、電源部がショートして火災や感電の原因となります。
  - 接栓が取り付けた同軸ケーブルの心線は、曲がっていないかを確認し、曲がないように接続してください。
  - 心線に白い膜が付いている場合は、接触不良の原因となりますので、必ずこすり取ってください。
  - 別売の接栓をご使用になるときは、接栓の取扱説明書に従って取り付けてください。

## ① 入力切換スイッチの操作

V-Low-FMはCUF35MSのみ



## ② コンバーター電源の操作

- 重畠ラインの機器は通電形を使用し、通電端子に接続してください。
- 重畠電源で動作させる以外の場合に通電しますと故障の原因となりますのでご注意ください。
- 電源の供給はケーブルの接続を確認した後に行なってください。

### 前置ブースターへの給電(給電スイッチ)

- 前置ブースターなどに電源(DC15V最大1.5W)を供給する場合は、給電スイッチを「入」にしてください。
- 前置ブースターを動作させるための重畠電源を供給できる端子は、UHF-V-Low-FM入力端子(CU35MSは、UHF入力端子)のみです。

### CS/BSアンテナへの給電(コンバーター電源)

- CS/BSコンバーター用電源(DC15V最大4W)を供給する場合は、コンバーター電源スイッチを「入」にしてください。
- コンバーター通電確認ランプ(P.L.)が赤色に点灯します。
- 入力端子側でショートしている場合、ランプが消え、この製品が動作しなくなり故障の原因となります。
- スイッチを「切」にして、入力端子側のショート箇所を取り除いてください。
- CS/BSコンバーターを動作させるための重畠電源を供給できる端子はCS/BS入力端子のみです。

## ③ 入力ATTスイッチの操作

- 入力ATTスイッチを操作することにより、入力レベルをフラットに下げることができます。
- それでもなお、入力オーバーの時は、別売のアッテネーター(減衰器)を入力端子に挿入してください。

### \*V-Low-FMのカットスイッチの操作 (CUF35MS)

- V-Low-FMを使用しない場合は、スイッチをカットしてください。消費電力を低減することができます。

## V-Low-FM

### 入力ATT

-10dB  
0dB  
(※)カット

### UHF

### 入力ATT

-10dB  
0dB

### CS/BS-IF

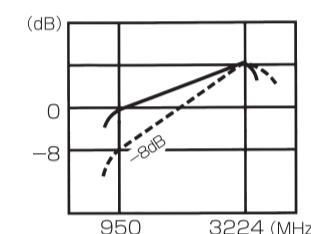
### 入力ATT

-10dB  
0dB  
-5dB

## ④ TILT調整ボリューム

### CS/BSの調整

- CS/BS TILT調整ボリュームを反時計方向いっぱいに回しかけると3224MHz付近を基準にして950MHzの利得が8dB減衰します。



## ⑤ 利得調整ボリュームの操作

CS/BS、UHF、V-Low-FMの調整 (CUF35MS)  
CS/BS、UHFの調整 (CU35MS)

後段に接続される機器が過入力にならないよう、利得調整を調整してください。

利得調整ボリュームは「反時計回り」いっぱいに回しかった時、利得が最小になります。

（ご注意）ボリュームは調整用小形ドライバーで軽く操作してください。強く回すとボリュームが破損する場合があります。



## 調整方法

### （調整の流れ）

手順1  
入力信号レベルの確認

### ■手順1：入力信号レベルを確認（重要）

はじめに、スペクトラムアナライザ（電界強度測定器など）またはレベルチェッカーで各帯域の入力信号レベルを測定し、入力レベル範囲内であることを確認してください。

V-Low-FM : 44 ~ 72dB $\mu$ V (CUF35MS)

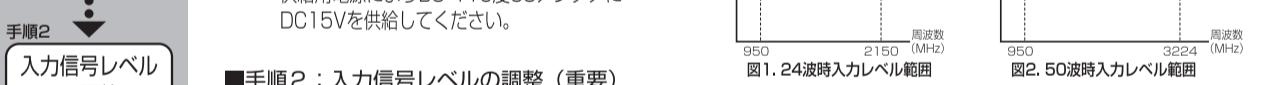
UHF : 44 ~ 80dB $\mu$ V (CUF35MS)(CU35MS)

CS/BS : 24波時 47 ~ 80dB $\mu$ V (950MHz/2150MHz) (CUF35MS)(CU35MS)

50波時 47 ~ 80dB $\mu$ V (950MHz/3224MHz) (CUF35MS)(CU35MS)

このとき、上記レベル範囲を超える場合は入力側にアッテネーター（別売）を接続し、下回る場合はアンテナの取扱説明書を見て再確認/調整してください。

※レベルチェッカーなどのCS/BSコンバーター供給用電源によりBS-110度CSアンテナにDC15Vを供給してください。



### 手順2：入力信号レベルの調整

確認した入力レベルが下記のレベルに近づくように各帯域の入力ATTスイッチを設定しておいてください。

V-Low-FM : 62dB $\mu$ V (CUF35MS)

UHF : 70dB $\mu$ V (CUF35MS)(CU35MS)

CS/BS : 24波時 70/70dB $\mu$ V (950MHz/2150MHz) (CUF35MS)(CU35MS)

50波時 70/70dB $\mu$ V (950MHz/3224MHz) (CUF35MS)(CU35MS)

### 手順3：信号の入力方法選択

入力切換スイッチをお客様の使用環境に合わせて選択してください。（ケーブルを接続する前に選択してください）

### 手順4：ケーブルの接続

入力端子にアンテナ側の同軸ケーブルを接続してください。

次に出力端子に末端側の同軸ケーブルを接続（または75Ωで終端）してください。

### 手順5：測定器の接続

スペクトラムアナライザ（電界強度測定器など）またはレベルチェッカーを出力モニター端子に接続してください。なお、出力端子に同軸ケーブルが接続（または75Ωで終端）されないと出力モニター端子は正確なレベルを出しません。（測定後は付属のモニターキャップを必ず取り付けてください。）

※より正確なレベル測定を行なう場合、出力端子に測定器を接続してください。

※測定を行う時、非常に高い出力レベルとなる場合があります。測定器故障の原因となりますので入力レンジに注意してください。

### 手順6：各帯域の調整

出力モニター端子は出力端子の出力レベルから20dB低い値を示しますので、真の出力レベルは20dBを加えてください。

### <V-Low-FMの調整> (CUF35MS)

出力レベルを測定します。定格出力レベル (77dB $\mu$ V) (※1)以下になるように、利得調整ボリュームで調整してください。

(※1 定格出力レベル 97dB $\mu$ V)

### <UHFの調整> (CUF35MS)(CU35MS)

出力レベルを測定します。定格出力レベル (78/82dB $\mu$ V : 24波時、78/85dB $\mu$ V : 50波時) (※2)以下になるように、利得調整ボリュームで調整してください。

(※2 定格出力レベル 105dB $\mu$ V)

### <CS/BSの調整> (CUF35MS)(CU35MS)

出力レベルを測定します。定格出力レベル (78/82dB $\mu$ V : 24波時、78/85dB $\mu$ V : 50波時) (※3)以下になるように、利得調整ボリュームで調整してください。

(※3 定格出力レベル 98/102dB $\mu$ V : 24波時、98/105dB $\mu$ V : 50波時)

### 手順7：最終チェック

この製品の後段に接続する機器に対して過入力の場合は、各帯域の利得調整ボリュームを反時計回りに回して調整してください。また、最終的に映像が正常に映ることを確認してください。

## （参考）カスケード（多段）接続時の運用

カスケード（多段）接続する場合は、各ブースターの出力レベルを右記のように設定してください。

